

(1) 記号について

○区切る

→ 。 、 ・ 、

→ 中点「・」＝並列の語を並べる

スラッシュ「/」＝複数の候補があり、そのいずれも選んでもよいことを示す

○囲む

→ かぎかっこ「」＝1. 他の著作からの引用

2. 論文名

→ 二重かぎかっこ『』＝書名

※引用以外で「」を使う場合

1. 意味を限定したり、特殊な意味を加えたりする

2. 読み手にとって馴染みない言葉を使用する

○並べる

→ 上位下位を知る

(1)→① I → i

(2) 論文に使用する動詞

目的	述べる、論じる、扱う、議論する、報告する、紹介する、明らかにする、示す、主張する、提案する
引用	上記「目的」の動詞を「シテイル」形に。他、指摘する、言及する、触れる、引用する、紹介する、上げる、参照するの「シテイル」形
調査	調べる、調査する、分析する、検討する、実験する、測定する、観察する、記録する、収集する、使用するの「シタ」形
結果	わかる、明らかになる、見られる、現れるの「シタ」形
考察	思われる、考えられる、見られる、言える
結論	上記「目的」動詞の「シタ」形

※石黒圭 (2012), 『この一冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』, 日本実業出版社参照

(3) 論文に適さない言葉

① オノマトペ→注意「はっきり」、「しっかり」、「きちんと」、「だんだん」、「どんどん」などもできるだけ使用しない。

② 略語→ () 書きや注で断る

③ 敬意を含む表現

④避けるべき話し言葉

	話し言葉	→ 書き言葉	話し言葉	→ 書き言葉
接続助詞	から	ので	したら	すれば
	して	し	のに	にもかかわらず
	しないで	せずに	けど	が
副詞	全然	まったく	一番	もっとも
	多分	おそらく	ちっとも	少しも
	絶対	かならず	もっと	さらに
接続詞	だから	そのため	けど	だが
	それから	また	だって	なぜなら
	でも	しかし	じゃあ	では
	が	しかし		

※石黒圭 (2012), 『この一冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』, 日本実業出版社参照

(4) 明晰な文を目指そう□文のねじれを避ける

○修飾の関係が曖昧な文

→必要に応じて読点を打つ・修飾語と被修飾語をできるだけ近くに置く

①宗介は笑いながら話し続ける彼女を黙ってみていた。

※笑っているのは宗介

②私は彼のように文章が上手くない。

※彼は文章が上手い

③ゆみこは必死の形相で追いかけてきた彼の腕にしがみついた。

※必死の形相はゆみこ

○語同士の対応がされていない文

④私の兄が部活からの帰り道で、子犬がダンボールに入れられて捨てられていた。

⑤私が日本語のなかで最も難しいと思うのは、助詞であると感じた。

⑥なぜなら、あの町は細い道が多く迷うだろうと思っていた。

○まとめの問題

①現代社会は、個人個人のニーズが多様化し、一人一人の趣味趣向に対応させなければヒット商品が生まれないのである。

②今回の成果は、中世期にこの海が日中の重要な貿易路となっていたことが発見された。

③夏目漱石の代表作の一つに、『それから』がそれである。

④インタビュー調査では、調査者の個人情報を取り扱いに注意する必要がある。

⑤SNS サービスを使っている時、いつでもどこでも友人と繋がっているという錯覚が問題である。

⑥アンケートによって調査の内容について論じる

⑦今度のダイエットでは、ジョギングと炭水化物の量を制限した。

(5) 明晰な文を目指そう□接続表現を使いこなそう

○長い文を短い簡潔な文にするには、接続表現を使いこなす必要がある。

順接	そこで・だから・ <u>したがって</u> ・そのため・すると
逆接	<u>しかし</u> ・だが・ところが・けれども
並列・添加	<u>また</u> ・そして・さらに
説明・補足	<u>つまり</u> ・すなわち・たとえば・なお・ただし
対比・選択	むしろ・あるいは・もしくは・または・いっぽう
転換	さて・ところで・では・それでは

※下線=頻出

○上記区分、役割を知ること重要だが「自説の導入」という目的で考えることも重要

☆ 先行研究及び常識を紹介し、「しかし」→「そこで」→自説

または「しかし」→「では・それでは」→自説

○整理の流れも必須

☆ 「まず」→「次に」→「また・そして・さらに」

参考文献

安部朋世・福嶋健伸・橋本修(2008),『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』.三省堂

橋本修・安部朋世・福嶋健伸 (2010),『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』.三省堂

石黒圭 (2012),『この一冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』.日本実業出版社

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会(2009),『日本語スタイルガイド(第2版)』.一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会
出版事業部会

遠藤郁子・神田由美子・羽矢みずき・与那覇恵子(2009),『マスター日本語表現』.双文社出版

佐藤喜久雄(1994),『国際化・情報化社会へ向けての表現技術1 「伝える」「考える」ための演習ノート』.創拓社出版

佐渡島紗織・吉野亜矢子 (2008),『これから研究を書くひとのためのガイドブック』.ひつじ書房